環境経営レポート

（2022年度版）

対象期間：2022年4月～2023年3月

株式会社前里工業

2023年7月27日発行

1　組織の概要　・・・　1

2　対象範囲　・・・　4

3　環境経営方針　・・・　5

4　環境経営目標と実績とその評価　・・・　6

5　環境経営計画と取組状況の評価　・・・　10

6　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無　・・・　14

7　代表者による全体評価と見直しの結果　・・・　14

8　次年度の環境経営目標及び環境経営計画　・・・　15

1　組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名
株式会社　前里工業
代表取締役　滝澤　正徳

(2) 所在地
本社　〒949-7512
新潟県長岡市川口田麦山109番地1
TEL　：　0258-89-2921　FAX　：　0258-89-4833
破砕リサイクル工場
〒949-7512
新潟県長岡市川口和南津2361番地1
魚沼支店(有人)
〒949-7416
新潟県魚沼市下島41番地1
TEL　：　025-795-6213　FAX　：　025-795-6214

(3) 環境管理責任者名及び連絡担当先
環境管理責任者　：　取締役　井口　剛太
連絡担当者　：　水落鈴香
TEL　：　0258-89-2921　FAX　：　0258-89-4833
E-mail：　maesato@shore.ocn.ne.jp

(4) 事業内容
産業廃棄物処分業(中間処理)、産業廃棄物収集運搬業、
一般建設業(土木工事業、とび・土工工事業、解体工事業、しゅんせつ工事業)
廃棄物再生事業、古物商

(5) 事業の実績

項　　目	単位	2021年度	2022年度
産業廃棄物収集運搬量	t	5,085	10,554
産業廃棄物中間処理量	t	3,274	2,860
(再資源化量)	t	3,274	2,860
工事件数	件	428	433
従業員数	人	27	31
売上高	百万円	474	585
事務所床面積	㎡	213	213
工場床面積	㎡	2,244	2,244

収集運搬量及び中間処分量は、受託分の数値です。

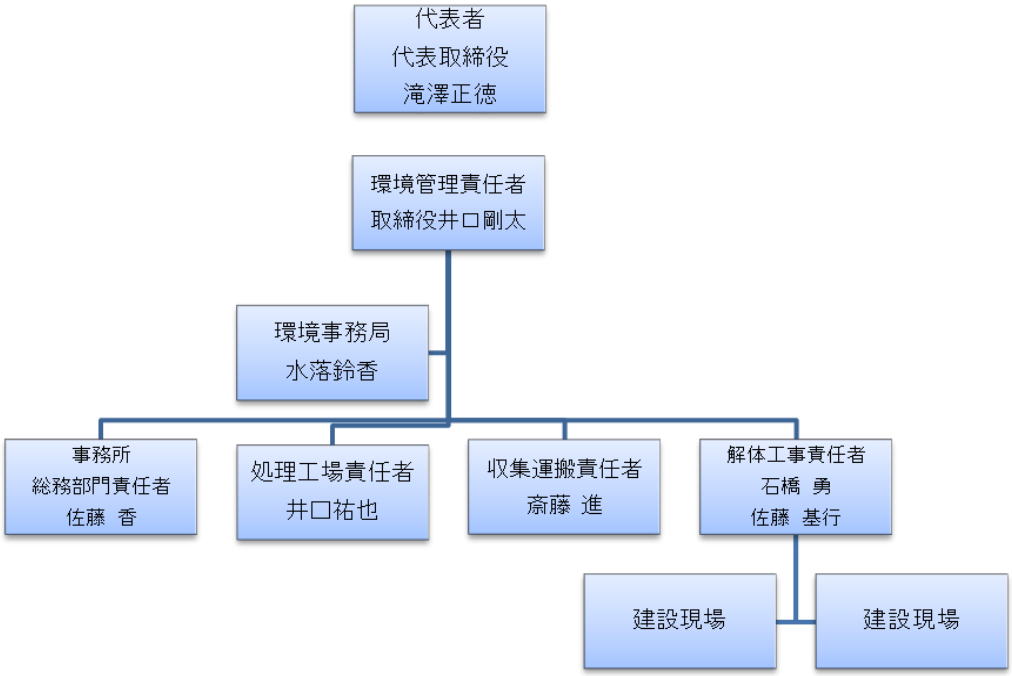
(6) 資本金　1,528　万円
法人設立年月日　昭和51年2月28日

(7) 環境負荷の実績

項　　目	単位	2021年度 2021年4月～ 2022年3月	2022年度 2022年4月～ 2023年3月
電力使用量	kWh	78,849	73,836
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	637,840	700,199
産業廃棄物排出量	t	17,756	14,542

注)電力に係る二酸化炭素排出係数は、2018年度㈱東北電力調整後排出係数0.528kg-CO_2/kWhを用いた。
産業廃棄物排出量は、自社排出物で自社で再資源化し売却した木くずチップを除く。

(8) 組織図



(9) 事業の許可概要

(ア)一般建設業及びその他の許可内容

許可区分	許可番号	許可の有効期限	建設業の種類
一般建設業	新潟県知事 許可 (般-29)第17561号	令和 4年10月18日から 令和 9年10月17日まで	土木工事業、 とび・土工工事業 しゅんせつ工事業 解体工事業

許可区分	交付番号	交付年月日
古物商	第461220000487号	2012年11月30日

(イ)産業廃棄物収集運搬業の許可内容

◇事業の基本計画

産業廃棄物収集運搬業については、新潟県内において、主に建設産業廃棄物排出者の委託を受け、車両21台を用いて収集運搬を行う。これらの実施に当たっては、廃棄物処理法を遵守し行う。

◇産業廃棄物収集運搬業

<table>
<tr><td rowspan="3">許可区分</td><td>許可年月日</td><td rowspan="3">事業の範囲</td></tr>
<tr><td>許可有効期限</td></tr>
<tr><td>許可番号</td></tr>
<tr><td rowspan="4">新潟県
産業廃棄物
収集運搬業</td><td>2018年11月19日</td><td rowspan="3">収集・運搬(積替え保管を含む。)
廃プラスチック類、繊維くず、ガラスくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず、がれき類(以上、石綿含有産業廃棄物を除く。)、金属くず(以上、水銀使用製品産業廃棄物を含む。)
収集・運搬(積替え・保管を除く。)
紙くず、木くず(以上、石綿含有産業廃棄物を含む。)、廃プラスチック類、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類(以上、石綿含有産業廃棄物に限る。)、汚泥、廃油、動植物性残さ、ゴムくず、(以上、水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を含む。)</td></tr>
<tr><td>2023年10月30日</td></tr>
<tr><td>01514124061</td></tr>
<tr><td>積替え保管</td><td>・所在地:新潟県長岡市川口和南津字小貫2361番1
・面積及び産業廃棄物の種類:
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(6.8㎡)、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボード)(18㎡)、 がれき類(6.8㎡)、金属くず(6.8㎡)、廃プラスチック類(24.4㎡)、繊維くず (24㎡)、(以上、水銀使用製品産業廃棄物を除く。)、水銀使用製品産業廃棄物(廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず)(2.0㎡)
・保管上限及び高さ:
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(8㎥)、ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボード)(36㎥)、 がれき類(8㎥)、金属くず (8㎥)(以上、容器内)、廃プラスチック類(15.2㎥)、繊維くず(24㎥)、水銀使用製品産業廃棄物(廃蛍光管)(0.54㎥)(以上、屋内)</td></tr>
</table>

◇産業廃棄物収集運搬業事業の用に供する全ての施設

<table>
<tr><th>運搬車両の種類</th><th>台数</th><th>運搬品目</th></tr>
<tr><td>ダンプ</td><td>9台</td><td rowspan="5">ガラスくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず、がれき類、金属くず、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、汚泥、廃油、動植物性残さ、ゴムくず</td></tr>
<tr><td>アームロール車</td><td>8台</td></tr>
<tr><td>クレーン車</td><td>1台</td></tr>
<tr><td>キャブオーバー</td><td>4台</td></tr>
<tr><td>清掃車</td><td>1台</td></tr>
</table>

(ウ)産業廃棄物処分業の許可内容　(優良認定)

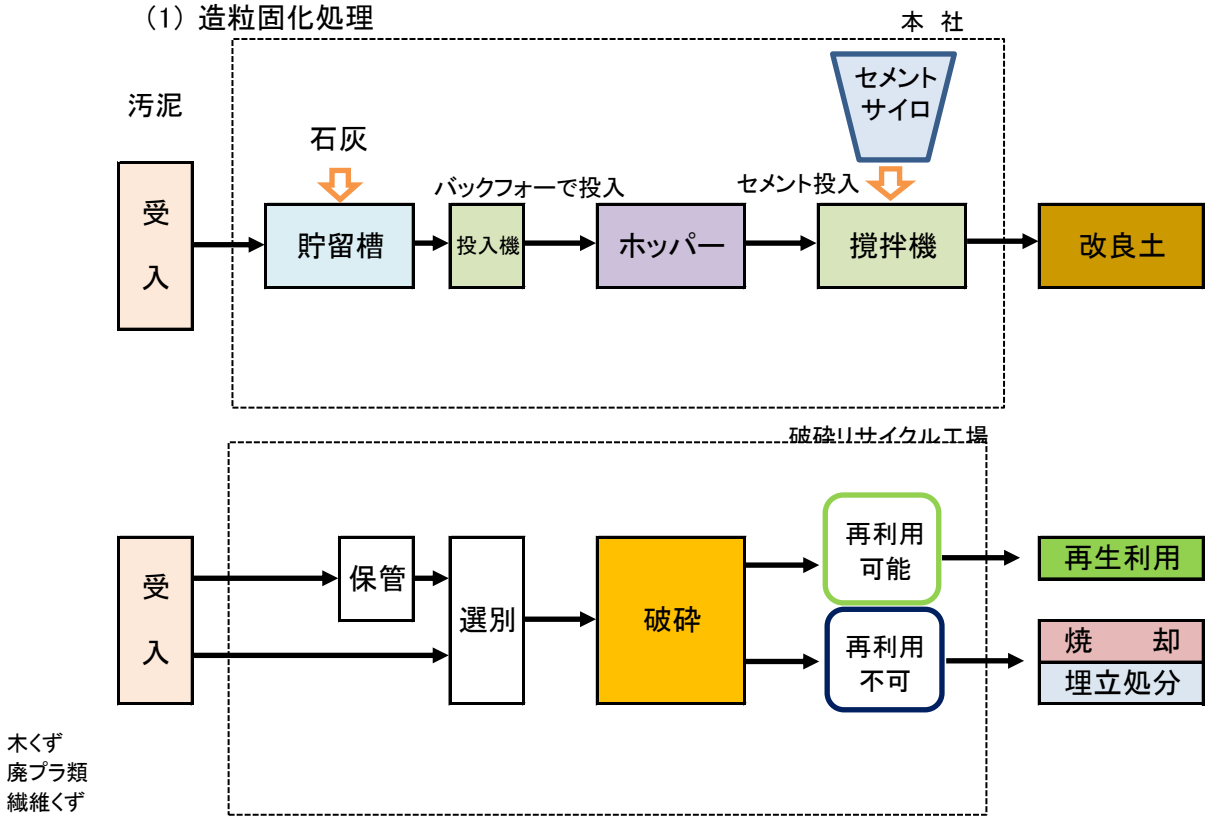
<table>
<tr><td rowspan="3">許可区分</td><td>許可年月日</td><td>2020年12月21日</td></tr>
<tr><td>許可有効期限</td><td>2027年12月19日</td></tr>
<tr><td>許可番号</td><td>01524124061</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物
処分業</td><td colspan="2">事業の範囲:中間処理(造粒固化処理) 汚泥(無機性のものに限る。)(水銀使用製品産業廃棄物及び水銀含有ばいじん等を除く.)
中間処理(破砕処理) 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードに限る。)(以上、石綿含有産業廃棄物及び水銀使用製品産業廃棄物を除く。)</td></tr>
</table>

◇産業廃棄物処分業に供する全ての施設

<table>
<tr><td rowspan="4">(1)</td><td>施設の種類</td><td>造粒固化処理施設</td></tr>
<tr><td>施設の設置場所</td><td>新潟県長岡市川口田麦山字壁平109番1</td></tr>
<tr><td>施設の設置年月日</td><td>平成17年6月9日</td></tr>
<tr><td>施設の処理能力</td><td>686t/日(8時間)</td></tr>
<tr><td rowspan="6">(2)</td><td>施設の種類</td><td>破砕処理施設</td></tr>
<tr><td>施設の設置場所</td><td>新潟県長岡市川口和南津字小貫2361番1</td></tr>
<tr><td>施設の設置年月日</td><td>平成25年9月2日</td></tr>
<tr><td>施設の処理能力</td><td>廃プラスチック類(13.9t/日)、紙くず(11.9t/日)、木くず(21.9t/日)、繊維くず(4.7t/日)、ガラスくず・ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードに限る。)(11.5t/日)(以上、8時間)</td></tr>
<tr><td>許可年月日</td><td>平成25年7月5日</td></tr>
<tr><td>許可番号</td><td>新潟県長振健第75-1号</td></tr>
</table>

(エ)処理工程図

（1）造粒固化処理



2　対象範囲

（1）認証・登録の範囲

エコアクション21の認証・登録の範囲は、全組織及び全活動です。

（2）環境経営レポートの対象期間及び発行日

表紙に記載のとおり。

3　環境経営方針

環　境　経　営　方　針

基本理念

株式会社前里工業は、解体業、産業廃棄物収集運搬業及び中間処分（破砕処理・造粒固化）業を社会のニーズに応えて展開し、自社及び処理受託した産業廃棄物を適正に処理し、再資源化を推進することにより、循環型社会構築の一翼を担っていきます。

また、企業活動においては、地域との協調、安全の確保、効率的な活動により、お客様や地域の信用、信頼に応え、社員一同日々精進し、以下の基本方針に基づき活動を進めます。このため、経営における課題やチャンスを踏まえ、環境経営の継続的な改善に努めます。

基本方針

1　エコ安全ドライブの実践及び無駄の少ない設備稼働により、省エネルギーを徹底し二酸化炭素排出量の削減に努めます。

2　節水に努め、水資源の保全に努めます。

3　もったいないを忘れず、廃棄物排出量の抑制に努めます。

4　工作物の除去に伴い発生する産業廃棄物及び処理受託した産業廃棄物は、適正に処理し、その再資源化の向上を目指します。

5　環境関連法規の遵守に努めます。

6　安全確保を第一とし、全員の技能を高める活動を行います。

2015年8月3日　策定

2019年6月3日　改定

株式会社　前里工業

代表取締役　滝澤公徳

4 環境経営目標と実績とその評価

(1) 環境経営目標

2021年度から2023年度の3ヵ年間の中長期の環境経営目標を下表に示します。

項目			基準年度実績		環境経営目標 (基準度比削減率又は増加率)		
			2019年4月～2020年3月		△:削減率 ▲:増加率 +増加値		
					2021年度	2022年度	2023年度
			使用量又は排出量	単位	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2023年3月	2023年4月～2024年3月
二酸化炭素排出量の削減	総量管理	電力	93,010	kWh	92,080	91,150	90,220
					△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
		灯油	795.0	ℓ	791.0	787.1	783.1
					△ 0.5 %	△ 1 %	△ 1.5 %
		上記項目二酸化炭素排出量	51,088.8	kg-CO_2	50587.8	50086.8	49585.9
					△ 0.98 %	△ 1.96 %	△ 2.94 %
	原単位管理	軽油車両	4.10	km/ℓ	4.12	4.14	4.16
					▲ 0.5 %	▲ 1 %	▲ 1.5 %
		軽油重機	3.91	ℓ/h	3.89	3.87	3.85
					△ 0.5 %	△ 1 %	△ 1.5 %
		ガソリン車両	12.1	km/ℓ	12.16	12.22	12.28
					▲ 0.5 %	▲ 1 %	▲ 1.5 %
		破砕施設	0.0844	t/kWh	0.0848	0.0852	0.0857
					▲ 0.5 %	▲ 1.0 %	▲ 1.5 %
一般廃棄物排出量の削減(可燃ごみ)			157.0	kg	155.4	153.9	152.3
					△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %
処理受託産廃の再資源化率			100	%	100	100	100
					維持	維持	維持
建設産業廃棄物の再資源化率			96.9	%	—	97	97.1
						+ 0.1	+ 0.2
資格取得の増加			—	件	1	1	1

注) 電力に係る二酸化炭素排出係数は、2018年度㈱東北電力調整後排出係数0.528kg-CO_2/kWhを用いた。水道の使用は今まで無かったが、2022年9月～数量の把握を始めた。2022年度・2023年度は数量の把握のみを行い、目標値の設定は今後行う。

基準年度の原単位目標の算定根拠は下記のとおりです。

項目	単位	項目	その値	項目	その値
軽油車両燃費	km/ℓ	走行距離	446399	軽油使用量	108954.2
ガソリン車両燃費	km/ℓ	走行距離	66386	ガソリン使用量	5469.1
軽油重機燃費	ℓ/h	軽油使用量	43645.5	稼働時間	11163
破砕施設電力効率指標	t/kWh	木くず処理量	6562	電力使用量	77782
受託産廃再資源化率	再資源化量/受託処理量	再資源化量	5260	処理受託量	5260
自社産廃再資源化率	再資源化量/自社産廃発生量	再資源化量	2255	自社産廃発生量量	2327.1

(2) 環境経営目標の実績

2022年度(2022年4月～2023年3月)の環境経営目標の達成状況は下表のとおりです。

電力使用量、電力及び灯油由来の二酸化炭素排出量、軽油車両、破砕施設の電力当 り原単位に係る 環境経営目標は達 成しました。一般廃棄物排出量、受託産業廃棄物の再資源化に係る環境経営目標及び資格取得数の増加に係る環 境経営目標についても、達成しました。一方、灯油使用量、ガソリンン車両の燃費及び軽油重機の燃費目標は、未達成となりまし た。また2022年度から目標設定した.建設産業廃棄物の再資源化率(自社物)の環境経営目標は未達成となりました。

環境経営目標の達成状況(2022年4月～2023年3月)

項目			基準年度実績		環境経営目標	実績	達成状況
			2019年4月～2020年3月		2022年4月～2023年3月		評価 ○:達成 ×:未達成
			使用量又は排出量	単位	△基準年度比削減率 ▲基準年度比増加率		
二酸化炭素排出量の削減	総量管理	電力	93,010	kWh	91,150 △2%	73,836 △ 20.6%	○
		灯油	795.0	ℓ	787.1 △1.0%	1,205.0 ▲ 51.6%	×
		上記項目二酸化炭素排出量	51,088.8	kg-CO_2	50,086.8 △1.96%	41,985.9 △ 17.8%	○
	原単位管理	軽油車両	4.10	km/ℓ	4.14 ▲1.0%	4.42 ▲ 7.8%	○
		軽油重機	3.91	ℓ/h	3.87 △1.0%	5.20 ▲ 33.0%	×
		ガソリン車両	12.10	km/ℓ	12.22 ▲1.0%	11.30 △ 6.6%	×
		破砕処理施設	0.0844	t/kWh	0.0852 ▲1.0%	0.0892 ▲ 5.7%	○
一般廃棄物排出量の削減(可燃ごみ)			157.0	kg	153.9 △2%	134.0 △ 14.6%	○
再資源化率(処理受託産業廃棄物)			100	%	100.0 維持	100.0 維持	○
建設産業廃棄物の再資源化率(自社物)			96.9	%	97.0 + 0.1	94.8 − 2.1	×
資格取得の増加			—	件	1	8	○

注) 電力に係る二酸化炭素排出係数は、2018年度㈱東北電力調整後排出係数0.528kg-CO_2/kWhを用いた。

当年度の原単位実績の算定根拠は下記のとおりです。

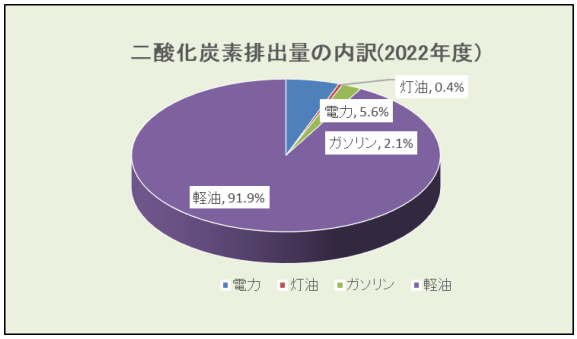
項目	単位	項目	その値	項目	その値
軽油車両燃費	km/ℓ	走行距離	683245	軽油使用量	154513.2
ガソリン車両燃費	km/ℓ	走行距離	70365	ガソリン使用量	6224.6
軽油重機燃費	ℓ/h	軽油使用量	58934.4	稼働時間	11342
破砕施設電力効率指標	t/kWh	木くず処理量	5281.7	電力使用量	59242
受託産廃再資源化率	再資源化量/受託処理量	再資源化量	2860.5	処理受託量	2860.5
自社産廃再資源化率	再資源化量/産廃発生量	再資源化量	13787.6	産廃発生量	14542.5

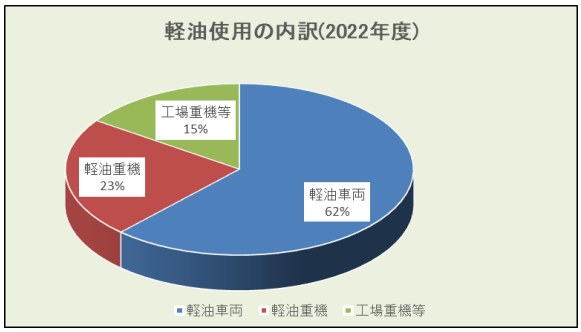
(3) 環境経営目標の実績の評価

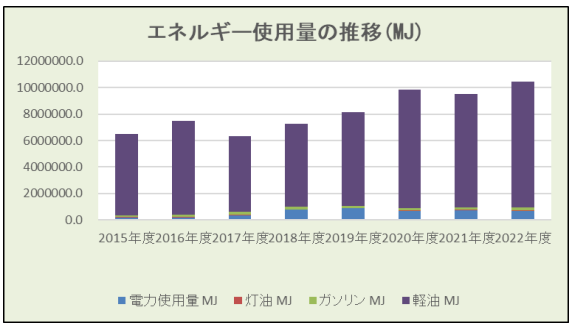
(ア) 二酸化炭素排出量の削減

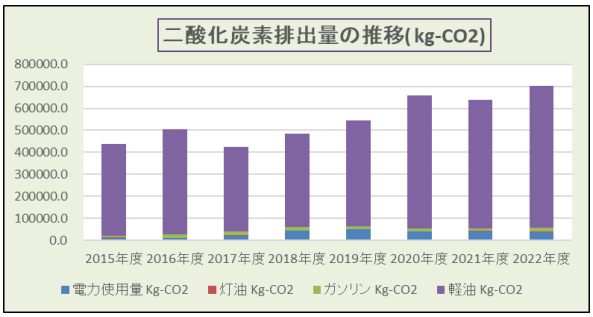
2022年度における二酸化炭素排出量の由来をエネルギー種類別にみると、下図のとおり、軽油由来のものが91.9%を占めています。また、軽油使用の用途内訳は、車両62%、重機(現場)23%、工場の重機・特殊自動車15%となっています。

また、2015年度から2022年度の、会社全体のエネルギー使用量及び二酸化炭素排出量の推移は、下図のとおりです。2017年度は減少しましたが、以降、業務の拡大に伴い、,前年度に比べ減少した2021年度を除き、増加傾向が続いています。









二酸化炭素排出量に係る環境経営目標は、排出源となるエネルギー種別に設定し、業務量に応じて増減する軽油、ガソリンについては、原単位目標を用い設定しました。また、電力及び灯油は工場・事務所での使用で、総量をもって、環境経営目標を設定しました。
以下にエネルギーの種別の環境経営目標の達成状況についての実績を示します。

① 電力使用量の削減

ア　使用量の削減
電力使用量の環境経営目標は、基準年の2019年度実績の2%削減の91,150kWh以下としました。
実績は、73,836kWhで、基準年の2019年度実績の20.6%削減で環境経営目標は達成することが出来ました。
電力使用量は破砕機の稼働により変動します。木くず処理受入量は基準年度実績に比べ19.5%の減少でした。
木くず処理量の減少により、破砕施設の稼働時間は減少し、電力使用量が減少しました。

イ　破砕施設の電力原単位の向上
電力のうち200V電力使用量は、工場での使用で破砕処理施設、汚泥の造粒固化施設で使用されています。破砕処理施設のエネルギー効率の改善に係る環境経営目標は、電力1kWh当りの木くず処理量とし、基準年の2019年度実績0.0844t/kWhの1.0%%向上にあたる0.0852t/kWh以上としました。実績は、基準年度実績に比べ5.7%%の向上となる0.0892t/kWhとなり、環境経営目標を達成しました。破砕施設の稼働時間が短縮され、効率の良い運転が可能となり、破砕施設のエネルギー効率の改善がなされました。

② 灯油使用量の削減

灯油使用量の環境経営目標は、基準年の2019年度実績である795ℓの1.0%削減の787.1ℓ以下としました。

実績は、1,250.0ℓと対基準年比で51.6%の増加で、環境経営目標を達成することができませんでした。

灯油使用量は、主に暖房に使用しています。業務の増加に伴い、事務所、特に会議室での使用時間が増加し、年間使用量の増加に繋がりました。

③二酸化炭素排出量の削減
　電力使用及び灯油使用に伴う二酸化炭素排出量の環境経営目標は、基準年の2019年度実績の0.981％削減の50,587.8kg以下としました。実績は、基準年実績の14.1％削減の43,907.3kgで環境経営目標をを達成しました。木くず処理の受入量は基準年度実績に比べ減少し、これ以上に木くず破砕施設の稼働時間が減少しました。破砕施設の効率が向上し、電力使用量が減少し、二酸化炭素排出量の減少に繋がりました。

④ 軽油使用に伴う燃費の改善

④-1 軽油（車両用）燃費の改善

軽油（車両用）使用に伴う二酸化炭素排出量の削減を図るため、燃費の改善を環境経営目標に設定しています。
軽油（車両用）燃費の改善に係る環境経営目標は、基準年の2019年実績の1ℓ当りの走行距離4.10km/ℓの1.0%向上に当る4.14km/ℓ以上を環境経営目標としました。実績は4.42km/ℓと7.8%の向上となり環境経営目標を達成することが出来ました。。
エコ安全ドライブの活動やタコメーターによる運転記録点検活動を進め、その成果が確認できました。

④-2 軽油（重機用）燃費の改善

軽油（重機用）使用に伴う二酸化炭素排出量の削減を図るため、燃費の改善を環境経営目標に設定しています。
軽油（重機用）燃費の改善に係る環境経営目標は、基準年の2019年実績の1時間当りの軽油使用量3.91ℓ/hの1.0%減少に当る3.87ℓ/h以下としました。実績は5.20ℓ/hと基準年実績の33.0%の増加となり環境経営目標を達成できませんでした。各月とも1時間当りの軽油使用量は、増加し特に大型鉄筋建物の解体が多かった7月、10月、11月の増加が著しく工事内容の変化が、増加の原因と考えられます。今後とも、重機のエコ運転に努めます。

⑤ ガソリン（車両用）燃費の改善

ガソリン（車両用）使用に伴う二酸化炭素排出量の削減を図るため、燃費の改善を環境経営目標に設定しています。
ガソリン燃費の改善に係る環境経営目標は、基準年の2019年実績の1ℓ当りの走行距離12.1km/ℓの1.0%向上にあたる12.22km/ℓ以上としました。実績は、基準年度実績を26.6%の悪化となる11.30km/ℓとなり、環境経営目標を達成することが出来ませんでした。今後とも、エコ安全ドライブの実践に努めて行きます。

（イ）廃棄物排出量(可燃ごみ）の削減

廃棄物排出量の削減目標は、管理可能な一般廃棄物（可燃ごみ)排出量の削減としています。

廃棄物排出量(可燃ごみ）の削減に係る環境経営目標は、基準年の2019年実績の可燃ごみの排出量157kgの2%削減にあたる153.9kg以下を目標としました。

実績は,基準年実績比14.6%削減にあたる134kgで環境経営目標を達成することができました。

紙類の使用量の節約を進め、業務上の紙使用量が減少し、可燃ゴミが削減されました。

（ウ）処理受託産業廃棄物の再資源化率

木くず(破砕処理）及び汚泥（造粒固化処理）の中間処理を行っています。

処理受託産業廃棄物(木くず、汚泥）の再資源化率に係る環境経営目標は、基準年実績である100%の維持とし、再資源化率100%を環境経営目標としました。なお、対象品目は、木くず及び汚泥です。

実績は100%と環境経営目標を達成することができました。今後とも再資源化に向けた活動を進めます。

（エ）建設産業廃棄物の再資源化率(自社物)の向上
　建設産業廃棄物の再資源化率(自社物)の向上に関する環境経営目標は、基準年度再資源化率96.9%の0.1ポイント増の97.0%を環境経営目標としました。実績は94.8%と環境経営目標は達成できませんでした。自社廃棄物は解体工事に伴うもので、ガラス・陶磁器くずの排出割合が増加し、基準年度の再現化率に比べ低下しました。

（オ）資格取得の増加

2020年度より資格取得の増加を環境経営目標に設定しました。
環境経営目標は、資格取得数を年に1件以上は取得することを目標としました。
実績は,8件の資格取得があり環境経営目標を達成することが出来ました。

5 環境経営計画と取組状況の評価

(1)環境経営計画と取組状況の評価

環境経営目標を達成するため、目標項目ごとに活動内容及びスケジュール等を下記のとおり定め活動を行いました。

各活動の項目ごとに実施状況を点検し、3段階で評価した結果は、下表のとおりです。
評価点数が低い活動項目については、周知徹底し向上を目指します。

（評価基準・・・3:出来た　2:出来たが更に努力が必要　1:出来なかった）

【事務所・総務部門】　2022年度（2022年4月～2023年3月）

項目	活動区分		環境活動の内容	主要な日程	責任者	担当者	取組結果	次期取組
周知活動			・環境経営方針、環境経営計画の掲示・周知	4月	部門長 佐藤香	佐藤香	2	継続
			・節電の掲示確認	4月			2	継続
二酸化炭素排出量の削減	建築物管理活動	節電	・電気使用量の表示等による啓発	通年			2	継続
			・エアコンフィルターの定期清掃	6月、12月			3	継続
	電力使用量の削減		・照明不要場所・不要時はこまめに電源を切る。	通年			3	継続
			・暖房の設定温度を20℃に設定する。冷房温度は28℃に設定する。	冷暖房期			3	継続
			・昼休みの消灯	通年			3	継続
			・リモコン使用のものは、不使用時は、コンセントを抜く。	通年			2	継続
	化石燃料の削減（灯油）		・暖房の設定温度を20℃に設定する。	11月～3月			2	継続
			・不要箇所での暖房を停止する。	11月～3月			2	継続
			・不要時間帯での暖房を停止する。	11月～3月			2	継続
			・温水の無駄な使用はしない。	通年			2	継続
廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）			・廃棄物の分別整理・管理	10月			2	継続
			・リサイクルの推進	通年			2	継続
			・コピー用紙の裏紙使用	通年			3	継続
			・使用済み封筒の再利用	通年			2	継続
			・使い捨て食品容器の使用を控える。	通年			2	継続
			・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通年			2	継続
水使用の適正管理			・水の出し放しをしない。	通年			2	継続
再資源化率（処理受託産業廃棄物）			・分別回収の推進	通年			3	継続
			・新規顧客の開拓	通年			2	継続
			・再生利用の説明	通年			2	継続
再資源化率（建設産業廃棄物）			・再資源化を行う処理業者への処理委託に努める。	通年			2	継続
			・処理委託契約においては、再生処理の優先を確認する。	通年			2	継続
資格取得数の増加			・資格講習会及び試験の日程等の情報収集と周知	通年			3	継続
			・資格者名簿の作成・更新	通年			3	継続

【解体工事部門】

項　目		活動区分	環境活動の内容	主要な日程	責任者	担当者	取組結果	次期取組
周知活動			・重機のエコ運転・節水等の活動を周知	4月	部門長 石橋　勇 佐藤基行		3	継続
二酸化炭素排出量の削減	軽油の削減（重機のエコ運転の推進）	重機の運転、重機の管理	・エコドライブ等の周知	通年			3	継続
			・重機の定期点検の実施指示	通年			3	継続
			・重機アワーメーターの記録の確認	通年			3	継続
			・安全運転教育の指導・啓発	通年			3	継続
			・安全運転講習会の受講指示	実施月			3	継続
			・事故等の報告徴収及び対応	発生時			3	継続
		重機のエコ運転	重機のエコ運転の実践	—	部門長 石橋 勇 佐藤 基行	運転者	—	—
			・急発進・急加速を避ける	通年			3	継続
			・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転できるよう車を配置する。	通年			3	継続
			・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転する。	通年			3	継続
			・エンジン回転を控えた省エネ運転に心掛ける。	通年			3	継続
			・一度ではなく、上から掘削する。	通年			3	継続
			・不必要な高エンジン回転を避ける。	通年			3	継続
			・不要なアイドリング運転を防止する。	通年			3	継続
			日常整備	—			—	—
			・エンジンオイルは適正に管理する。	通年			3	継続
			・ブレーキの点検を怠らない。	通年			3	継続
水使用の適正管理			・水の出し放しをしない。	通年		各職員	3	継続
			・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	通年			3	継続
廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）			・使い捨て食品容器の使用を控える。	通年		各職員	3	継続
			・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通年			3	継続
再資源化率（建設産業廃棄物）			・分別を徹底する。	通年		各職員	3	継続
			・現場でのコンテナ保管では混合廃棄物の発生の抑制に努める。	通年			3	継続
資格取得数の増加			・技能の実地教育及び技能の伝承	通年		各職員	3	継続

【処理工場部門】

項　目	活動区分	環境活動の内容	主要な日程	責任者	担当者	取組結果	次期取組
周知活動		・節電・重機のエコ運転、節水等の活動を周知	4月	部門長 井口 祐也	部門長	3	継続
工場施設管理活動	設備管理	・設備の定期点検	通年			3	継続
	節電	・消灯・節水ポスターの掲示確認	4月			3	継続
	廃棄物管理	・廃棄物の分別整理・管理	10月			3	継続
		・リサイクルの推進	通年			3	継続
	5S活動	・5S活動の推進（整理・整頓・定位置運動）	通年		各職員	3	継続
		・構内パトロールの実施(防火・整理状況等）	通年			2	継続
		・喫煙における喫煙場所の厳守	通年			3	継続
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	・照明不要場所・不要時はこまめに電源を切る。	通年		工場運転者	2	継続
		・昼休み時の消灯	通年			2	継続
		・電力使用機器は、不使用時は電源を切る。	通年			2	継続
		・外灯の消灯を確実に実施する。	通年			3	継続
	軽油の削減　設備機器の適正運転	・設備不稼働時は電源をこまめに切る。	通年			3	継続
		・処分は、計画的に行い、設備の効率的な運用を行う。	通年			3	継続
		・機器の稼働は、正常な状態で運転を行う。	通年			3	継続
		・効率的な設備運用方法を確立する。	通年			3	継続
	重機のエコ運転	・油圧シャベルの旋回角度を小さくして運転できるよう車を配置	通年			3	継続
		・エンジン回転を控えた省エネ運転に心掛ける。	通年			3	継続
		・不必要な高エンジン回転を避ける。	通年			3	継続
		・不要なアイドリング運転を防止する。	通年			3	継続
水使用の適正管理		・水の出し放しをしない。	通年		各職員	3	継続
廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）		・使い捨て食品容器の使用を控える。	通年		各職員	3	継続
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通年			1	継続
再資源化率（処理受託産業廃棄物）		・分別回収の推進	通年	井口 剛太	各職員	3	継続
		・新規顧客の開拓	通年			2	継続
		・再生利用の説明	通年			2	継続
資格取得数の増加		・技能の実地教育及び技能の伝承	通年		各職員	2	継続

【収集運搬部門】

項　目	活動区分	環境活動の内容	主要な日程	責任者	担当者	取組結果	次期取組
周知活動		・エコ安全ドライブ・節水等の活動を周知	4月	部門長 斎藤　進		3	継続
二酸化炭素排出量の削減	軽油・ガソリンの削減（エコ安全ドライブの推進）　運転・運行・車両の管理（車両）	・エコ安全ドライブ等の周知	通年			3	継続
		・車両の定期点検の実施指示	通年			3	継続
		・運転記録と安全運転管理者による記録の確認	通年			3	継続
		・安全運転教育の指導・啓発	通年			3	継続
		・安全運転講習会の受講指示	実施月			3	継続
		・事故等の報告徴収及び対応	発生時			3	継続
	エコ安全ドライブの実践（車両）	エコ安全ドライブの実践	—	部門長 斎藤進	運転者	—	—
		・急発進・急加速を避ける。	通年			3	継続
		・シフトアップは早めに。シフトダウンは遅めにする。	通年			3	継続
		・一定速度の走行をする。	通年			3	継続
		・経済速度での走行をする。	通年			3	継続
		・不要なアイドリンク運転を防止する。	通年			3	継続
		・排土作業時のエンジン回転数を抑える。	通年			3	継続
		・エアエレメントはこまめに清掃する。	通年			3	継続
		日常整備	—			—	—
		・タイヤ圧を適正に保つ	通年			3	継続
		・エンジンオイルは適正に管理する。	通年			3	継続
		・ブレーキエアタンクの水抜きを怠らない。	通年			3	継続
水使用の適正管理		・水の出し放しをしない。	通年		各職員	3	継続
		・洗車はストップバルブ付きのホースを用い行う。	通年			3	継続
廃棄物排出量の削減（可燃ごみ）		・使い捨て食品容器の使用を控える。	通年		各職員	3	継続
		・廃棄物の保管は分別を徹底し、紙類はリサイクルに回す。	通年			3	継続
資格取得数の増加		・技能の実地教育及び技能の伝承	通年		各職員	3	継続

(2)エコ安全ドライブ・重機の省エネ運転点検結果

エコ安全ドライブ・重機の省エネ運転の活動状況を各人が点検しました。その結果は下図のとおりです。

(ア) 点検結果の概要

・「出来なかった」ことがある活動項目として、以下が挙げられます。

:車両管理における「エアエレメントはこまめに清掃する」

:車両管理における「タイヤ圧を適正に保つ。」

:重機管理における「エンジン回転数を控えた省エネ運転」

・「出来たが更に努力が必要」がある活動項目として、以下が挙げられます。

:車両管理における「エアエレメントはこまめに清掃する」

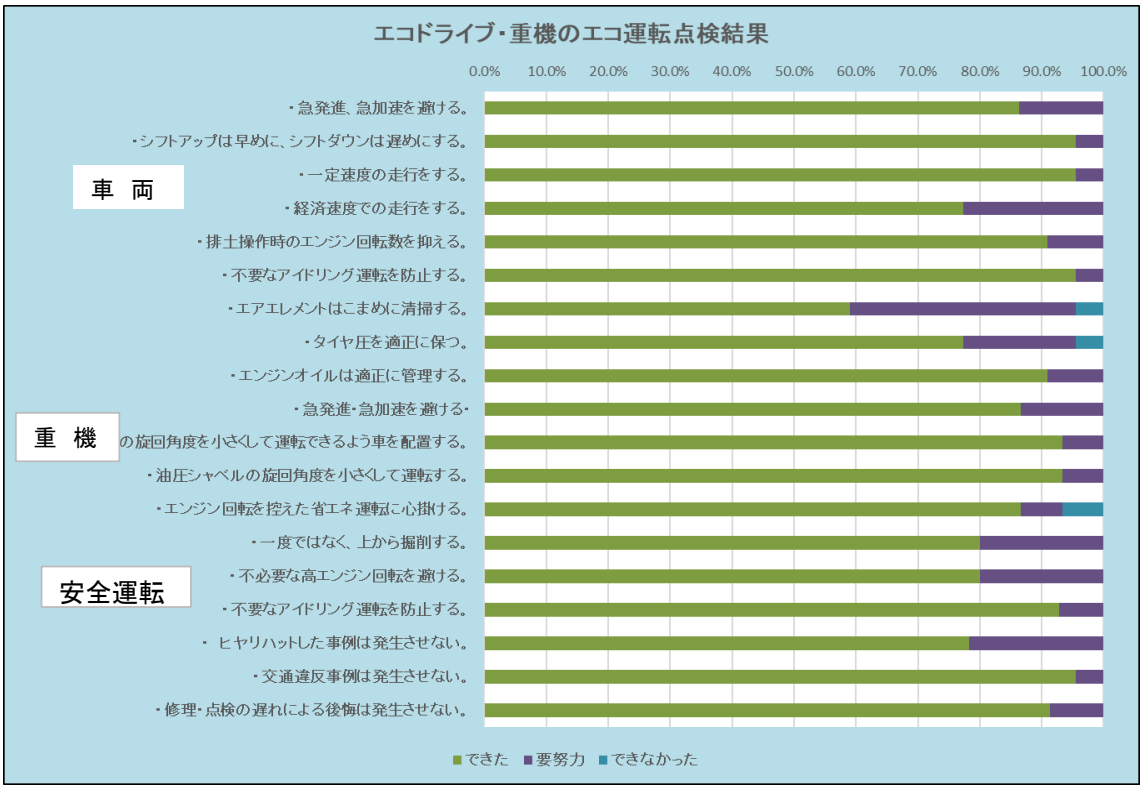
:車両管理における経済速度での走行をする。

:安全運転におけるヒヤリハットした事例は発生させない。

(イ) 点検結果のまとめ

安全の確保及び無駄の少ない燃料の使用を図るため、今後もエコ安全ドライブ、重機のエコ運転に努めていきます。

点検結果からは、改善すべき事項があることを再度認識し、環境経営計画の徹底を図っていきます。



6 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認結果

当社に関連する主な環境関連法規は以下のとおりです。これら環境関連法規について遵守状況を自主点検した結果、違反はないことを確認しました。

NO	関係法令
1	廃棄物処理法
2	新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
3	建設リサイクル法
4	騒音規制法
5	振動規制法
6	新潟県生活環境の保全等に関する条例
7	大気汚染防止法
8	水質汚濁防止法
9	悪臭防止法
10	自動車リサイクル法
11	家電リサイクル法
12	フロン排出抑制法
13	消防法
14	長岡市火災予防条例
15	道路交通法
16	道路運送車両法
17	建設業法
18	オフロード法
19	労働安全衛生法
20	石綿障害予防規則
21	一般高圧ガス保安規則

(2) 違反、訴訟等の有無

当社は、関係当局から違反などの指摘は、ありません。 また訴訟もありません。

7 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 全体の評価

当社で最も環境負荷の大きな軽油車両燃費の環境経営目標は達成した。受託産廃は全量再資源化を達成した。破砕施設の稼働時間の短縮が実現し、使用電力kWh当りの処理量(原単位)の環境経営目標を達成した。資格取得の増加に係る環境経営目標も達成した。一方、灯油使用量、ガソリン車両燃費及び建設産業廃棄物(自社物)の再資源化率の環境経営目標は達成できなかった。また大型鉄筋コンクリートの解体が多く、重機燃費の環境経営目標を達成できなかった。

各自の役割の明確化等を進めてきたが、更に自覚を深め、今後の改善点を見つけ、活動を続けていく。

(2) 見直しの結果

ア 環境経営方針

2022年度において、改定を要する特段の変化はなく推移しているが、審査員の指導があり所要の変更を行う。

イ 環境経営目標

2022年度において、改定を要する特段の変化はなく、見直しの必要性はない。

ウ 環境経営計画

2022年度において、改定を要する特段の変化はなく、見直しの必要性はない。現環境経営計画を継続し、活動を行い、実績を積み上げていくこと。

エ 実施体制

現行の実施体制を維持していく。変更の必要性はない。

(3) その他指示事項

定期的に安全ミーティングの場において、エコアクション21活動について教育や連絡を行っていく。安全を第一とし、効率的な車両、重機の運転を行うことをエコアクション21活動の基本として、活動を続けていくこと。工場においては、購入電力に係る目標の達成のため、施設の効率的な運転及び安全確保を行うこと。各自、エコアクション21認証の企業であることを自覚し、日頃の業務に活かしてほしい。

8　次年度の 環境経営目標及び環境経営計画

（1）次年度(2023年度）の環境経営目標
　次年度(2023年度）の環境経営目標は、6ページ(1)環境経営目標に示したとおりです。

(2) 次年度の環境経営計画
次年度(2023年度）の環境経営計画は、10ページ、11ページの表中次期取組のとおりです。
現行の環境経営計画を継続して実施します。